

栗野・徒然日記

式帖の式・秋

令和二年十一月から綴り始めた「栗野・徒然日記」を、**春(三〜五月)**、**夏(六〜八月)**、**秋(九〜十一月)**、**冬(十二〜二月)**の季節ごとに再編集しました。
栗野の四季折々と日常をつれづれなるままに。

それでは一筆!!

2022.9.1 夏休みも終わり…



(14時21分撮影)



▲◀夏の雲は姿をどんどん変えます(14時12分撮影)。夏休みが終わっても残暑厳しい中、子どもたちは雨傘を日傘代わりにしています。

9月に入りました。岩野田北小学校では、7月21日からの夏休みが終わり、30日が「始業日」でした。市内の公立小学校は、数年前に選択制となった2期制の小学校と、3期制(4校)とが混在しています。2期制では、終業日、始業日と言い、3期制は始業式、終業式と言うらしい。全校が20日に終業日(式)なのですが、始業日(式)の方は、9月1日の小学校は6校あります(内2校が2期制)…??? ちなみに岩野田中学校も岩野田北小学校と同じ日程(3期制の2中学校は9月1日に始業式)。

ずっと以前は、確か24日に終業式、9月1日が始業式だったと記憶しています。今は、教室や体育館に空調が整備され、昔と比較にならないほどの厳しい暑さでも、夏休みの意義は変化しているのでしょうか。

2022.9.4 蘭の香り漂う



今年も野生の鈴虫が鳴き始めました。
鉢植えの東洋ランが満開です。ランと言うと育て方が難しいように思われがちですが、この「雪月花」という品種は、手間いらずで毎年咲いてくれます。ほのかにさわやかな香りが漂っています。東洋ランは江戸時代から育てられているようです。

山際ではアカメガシワが、実を付け始めました。

名残惜し気に鳴くツクツクボウシ。見上げれば夏雲に混じって、秋の雲が天高く広がっていました。



▶まだ先日、赤い芽を吹いていた気がするアカメガシワが、小さな実を付けています。

2022.9.7 夏バテと最寄りの激辛食品



朝夕、涼しい気配が漂い始めると、夏の疲れが出ることも。「夏バテ」には、辛いものが良いと言いますね。辛み成分が消化器の粘膜を刺激し、消化液、唾液の量が多くなって食欲増進につながるというのが直接的な理由。以前、ローソンの激辛カレーパンのことを書きましたが、近くのスーパーやコンビニで買い求められる辛味のものを買いました。

激辛のレトルトカレー2種類、旨辛カップ焼きそば2種類、タバスコ(ハバネロソース)が1種類そしてファミリーマートに並んでいる「超暴君ハバネロ」。カレーは期待を裏切らない辛さで、味も微妙に異なる(原材料表示が、片方は、単に香辛料としか書いてないのが気になります)。タバスコも通常のペッパーソースよりかなり辛目で、香りの違いに若干戸惑う。便を振った手で何気なく目の付近をなでると肌に痛みが走る。ファミマで買えるスナック菓子のハバネロは辛みがより強い一品。どれも普段買出来る価格。辛いもの好きの人は一度お試しのほど。

「辛み」は味覚(酸味、塩味、甘味、苦み、うま味)によるものではなく、痛覚や温覚が反応して感じているとか。言われてみれば、発汗作用があり、目に入ろうものなら激しい痛みを感じるなんて現象は、他の味覚物質にはありませんね。

食欲増進のほかにも、辛み成分のカプサイシンによる発汗作用により新陳代謝が良くなり、冷え性改善、脂肪や疲労物質も分解されやすくなるなど良いことまるけ。辛いものが癖になりがちなのは、脳が、興奮・覚醒などの効果がある「アドレナリン」と、恍惚感、多幸感、苦痛を和らげる効果のある「エンドルフィン」を分泌するためだと言います。

効果、効用も多いようですが、摂り過ぎると胃腸を刺激して痛める原因になる恐れがあるため、注意が必要。何事もほどほどに…。それにしても、癖になるカプサイシンを使ったメニューを提供する店は、大盛と並んで今後のトレンドになるのではないのでしょうか。



▲コンビニ限定販売のスナック菓子「ハバネロ」。



▲カップラーメンだけでなく、最近はカップ焼きそばにも辛口が登場。



▲タバスコ「ハバネロソース」は通常の品よりかなりの辛さ。タバスコを置かないパスタ店、胡椒を置かないラーメン店は、料理人のこだわりなのでしょうね。

2022.9.15 エリザベス女王逝く



エリザベス女王が8日、96歳でこの世に別れを告げられました。14日に開始された弔問には、24時間で数十万人の国民が訪れるとのことでした。

イギリス王室は、約1000年の歴史を持つ世界で3番目に長い王族とされます。世界には27とも28とも言われる王室（ノルウェーとデンマークは国王は違うが同じ王室なので1つの王室として扱うなど解釈が違うようですし、歴史の古さも文献によってランキングがなぜか違います）。

そんな中で、もっとも長い歴史（短く見積もって1,500年）を持つのが日本の皇室。しかも、王朝が一度も交代することなく、我が国とともに歴史を刻んできました。

イギリスに話を戻すと、エリザベス1世は、16世紀後半、スペイン艦隊を撃破し海外へ進出、大英帝国への一歩を踏み出した女王ですが、初めて女王が誕生したのは12世紀だそうです。

歴史背景は違えども、我が国の女性天皇は8名で、例えば、推古天皇は中国が隋から唐に代わる時代、元明天皇は平城京遷都の時代だったと言います。現在は男子に限られる天皇ですが、女性天皇の容認について賛否両論。一向に先が見えません。どのように決着するのでしょうか。

【写真】1952～54年に発行されたイギリスの普通切手（昔集めていた切手の未整理の箱に紛れ込んでいました）。通常切手なのがミソ。

2022.9.20 台風



超大型台風が接近しつつある日、東の空が朝焼けに覆われました（写真は5時27分撮影）。第2室戸台風（昭和36年）、伊勢湾台風（昭和34年）クラスの超大型と言われた台風14号は、九州に上陸した後、日本海側を通り、列島を縦断しました。東海地方には夜半に最接近しました。あらかじめ岐阜市内には午後3時に高齢者等避難が発令されました（今朝6時に解除）。幸いにも市内は風雨ともに軽く済みました。全国各地では大きな爪痕が残されたようです。被害に遭われた地域の皆さんには心よりお見舞いを申し上げます。

子どもの頃、伊勢湾台風が直撃した日、私の父は勤務でしたが、今度の台風は大きいから、といったん昼頃に帰宅し、南窓にトタン板を打ち付け、また出社して行きました(報道も東京中心で、情報が十分にいきわたっていない、と憤っていました)。深夜、木造の我が家は、風がうなりをあげて吹き付けるたびにきしみ、子どもながらに神様にお祈りしたのを覚えています。台風が目に入り、風は止みホッとしましたが、しばらくして再び吹き始めました。父の準備がなかったら、窓ガラスは割れて、我が家はどうなっていたか知りません。翌朝、数軒隣の平屋家屋が倒壊し、お住まいのお一人が亡くなられたのを知りました。台風一過とはよく言ったもので、翌日の燃えるような夕焼けは忘れられません。長良川の堤防沿いの我が家の前面道路の小さな穴から、水がちょろちょろ噴き出していました。数日後、濁った水がようやく引いた長良川の河川敷は、格好の遊び場だった砂山がすっかり消え失せ、石の川原に一変していたのには驚きしかありませんでした。第2室戸台風は午前中だったので、確かに強風がすさまじかったのですが、深夜の伊勢湾台風ほどの恐怖はありませんでした。

台風が過ぎ去った今日、吹き返す風が心地よく感じられます。雲も多く、暴れ足りなかったせいか、台風一過とは言い難い空模様。とは言え、一気に秋が訪れそうな気配です。



▲台風が過ぎ去っても薄雲がかかる空。実りつつある稲穂も、倒れているカブも見られるものの、大事には至らなかった様子。

2022.9.27 ニラとヒガンバナ



鳥羽川堤のヒガンバナが真っ盛り。その横で花開いているのは何とニラの大株。こぼれダネで野生化したのでしょう。曼殊沙華とも言われるヒガンバナは、釈迦が法華経を説いた際に天から降った花の一つとか。一方、臭いの強いニラは、仏教では肉類とともに、食べることが禁じられました。そんな花が隣り合わせに咲いています。

凶弾に倒れて 80 日、安倍元首相の国葬が東京の日本武道館で執り行われました。国葬と言いながら、半旗を掲げない自治体、国葬に参列しない首長も多い。

一般による献花の列が絶え間なく続き、約 2 万人の警官が警備する最中、国葬反対のデモ、式の時間に合わせて鳴り物を叩く者あり…。



▲眉山の頂上には、大和朝廷に仕えた豪族の鎧塚古墳、麓には米作りをしていた人々の岩崎古墳群。

2022.10.4 水涸るる



▲用水路の水涸れ、ヒマワリもすっかり頭を垂れています。

季節は「水始涸（みずはじめてかる）」を迎えました。山際や道端の草も、実を付け(トップ写真はタデ科のイシミカワ)、ムカゴを付けたヤマノイモも見られます。街路樹のハナミズキも赤い実を付けています。団地の山際のドングリはまだ青い実のまま。すでに稲刈りを終えた田も多く、夏場水を引き込んでいた水路も枯れています。鳥羽川堤の桜紅葉を楽しむこともなく、気付いてみればすっかり葉を落としています。暑さも一段落しそうな気配です。

北朝鮮がミサイル発射実験を続けています。昨日は弾道ミサイルが青森県上空を通過し太平洋に落下。上空通過は、過去6回あるそうですが、北海道と東北の一部にJアラートが鳴り響き、避難が呼びかけられました(一部に不具合が生じ、課題を残すなど、防衛体制に懸念が生じますね)。

世界で、最も平和が損なわれる恐れのあるエリアの一つに、私たちは暮らしています。平和を守る、地球環境を守る活動とは何か…地域のイベント、子育て、防災などに反映することも、地域のまちづくりにも必要ではないでしょうか。

川の流れる如く、絶え間なく、よどみなく、水涸るることなく…社会課題も念頭に置きながら、地域ビジョンに沿って、みんなでまちづくりを進めたいですね。



◀夏の間は、水を絶えず流し続けていた水路(8月7日撮影)

2022.10.6 「二頭の龍」…駄洒落です



龍は、水を司り、恵みの雨をもたらす水神とされてきました。岐阜市内にも、龍にまつわる話が伝わる寺社がいくつか見られます。この近くでは、藍川地区の「洞泉寺」。1460年ごろの創建と言われ、その後の承久の乱で荒れ果てたところ、通りかかった僧侶が害をなしていた当地の龍に法を説き、龍はこの地を守るようになったと言います。立地からして長良川にもちなんだ伝説でしょうか。

岐阜市のつたえ話に収録されているのが、「鶉田神社」の尾なし龍。本殿前の柱に巻き付いた木彫りの龍が、厳しい年貢の取り立てを背景に、一人の娘が境川に溺れたのに怒り、加納城下を焼き払いました。これに恐れをなし、飛べないように尾が切り捨てられたと言います。一方、二頭の木彫りの龍がいるのが「手力雄神社」。畑を荒らす二頭の龍が出歩けないようにするため、おはらいをし、目玉に大きな釘を打ったとか。二つの神社は、今年も長森南地区で氾濫した境川沿いに位置しているだけに、龍神伝説が生まれたのかも知れません。

で、「二頭の龍」と言えば…二刀流。メジャーに渡って5年目の二刀流は、先月30日、8回2死までノーヒットピッチングを続け、15勝目を達成、打者としても4打数2安打でした。普段はヒヤヒヤして生中継を見ていられないのですが、この試合はなぜか終始落ち着いて観戦できました。ノーヒットノーラン達成を感じさせる雰囲気でした…。直前の打席で内野安打を放ち、塁に残ったのも影響したのかも知れません。結局この回で降板したのですが、珍しく随分と疲労した様子でした。10月6日、シーズン最終戦に登板し、5回を投げてメジャー初のダブル規程数を達成しました(666打席、投球回166。8月には104年ぶりに2桁勝利、2桁本塁打を達成済)。5回に点を失って負け投手になりましたが、この日も4回まではノーヒットに抑えました。

多分、二度と破られない記録ではないかと思うのですが(できるとすると本人次第?)、MVPは、ホームラン62本(ア・リーグの記録を61年ぶりに更新)のヤンキースのジャッジが優勢との前評判。二刀流の成績は同じ次元で比較できるような成績ではないと思うのですが…。彼の竜神とも言える活躍に、随分と元気をもらいました。ちなみに、立浪ドラゴンズは、最下位に沈み込みました。

2022.10.20 きのこの日



今日は「きのこの日」。栗野台の団地の、数年前に伐採されてしまったケヤキの切り株に、カワラダケ(瓦茸)が生えていました。猿の腰掛より小型ですが、図鑑によれば、黒、褐色、濃青、黄色、白など様々な色があるようです。それもそのはず、学名に *versicolor* の名が付いています。食用になるきのこは生えていないようですが、秋のワンシーズンが見られます。



▲白色のカワラダケ。



▲褐色のカワラダケ。



▲大きいので、カワラダケではないかも。手前の樺の葉と比べてみてください。

2022.10.16 侵略的外来種



こぼれ種で生えたカボチャにしては違うような、と気になっていた蔓草がトゲに覆われた実を付け始めました。特定外来生物で植物防疫法指定生物かつ外来種の中でも生態系などに特に影響が大きい侵略的外来種ワースト100に名を連ねるアレチウリです。ワースト100に選定されているアメリカザリガニ、オオカナダモ、キシヨウブ、セイタカアワダチソウ、ヒメジュオンはこの地域でもおなじみですが、アレチウリには初めてお目にかかりました。その繁殖力は凄まじく、1株当たり25,000個以上の種子をつけていた例もあり、固有在来種が駆逐されてしまう恐れがあります。駆除に住民の協力を求めている自治体もあります。

いつも草刈の手入れはされている民有地に生えているので、種が熟さないうちに処分されるかと思えます。

外来種の生息状況について、まちづくり協議会の環境部会でも、話題にすると良いかも知れませんね。

◀アカメガシワの木を覆い尽くす勢いです。鳥が種を運んできたのでしょうか。

2022.10.20 冷え込んだ朝



今朝は昨日の7度を下回りました(トップ写真は、セイタカアワダチソウとバイパスの電光表示。午前6時現在、気温6度を示しています)。札幌市では6.6度と今朝のニュースで知らせていましたが、はて? 寝床を抜け出しにくい季節でもあります。そう言えば、一昨日の夕方の天気予報で、若い女性の予報士が「“寝間着”も厚手にすると良いですね」と繰り返していましたが、“寝間着”とは…おばあちゃん子かも知れませんね。

散歩していると、手がかじかんできました。早朝ですが、散歩している人は少なくありません。お一人、ビニール袋を携え、ゴミを拾っている女性が見えました。まさにながら運動のボランティア。地域ビジョンを実践する姿に感動しました。ありがとうございます。

虫の音もかすか。季節は「蟋蟀在戸(きりぎりすとにあり)」、昔なら土間に入り込んだコオロギが甲高く鳴いていたものです。それでも中天には、丸々と太った黄金蜘蛛が巣の真ん中に鎮座しています。そう言えば、最近は鬼蜘蛛をとんと見かけません。夜巣を張って、朝にはたたむそうですから、目につきにくいことなのでしょうけれど、昔は沢山見かけたものです。それにしても、その都度、網を張り替えるのは大変でしょうね。

▶ごみを拾いながらのウォーキングをしていらっしやいました。何かしつぽボランティアを実践する「ながら運動」のお手本です。ありがたいですね。



◀蜘蛛肥ゆる秋?
秋空の中天に蜘蛛の糸が輝いていました。

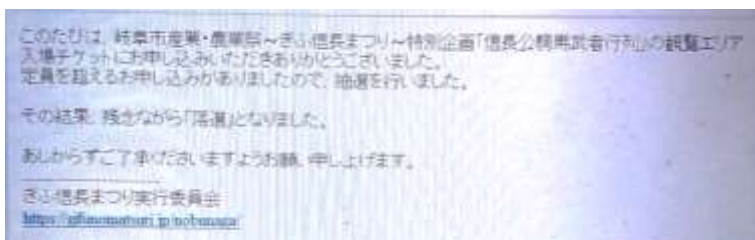
2022.10.22 無花果(イチジク)



近くの無人販売所で、イチジクを売っていました。ぽってりと完熟した手触り、シナモン風の甘さと香りがたまりません。3個で50円。ありがたいことです。花は内部に咲くだけけれど、無花果の漢字が当てられていることから、イチジクには子孫が絶えるとの迷信があります。それに抗議するかのよう、花言葉は「子宝に恵まれる」です。

物価の高騰がとまりません。円安、ロシアによる戦争、エネルギー問題などを背景に、9月は3%上昇。記録的な数字らしいけれど、いやいや、一つ一つの品物を見たら、30%程値上がりしているものも。年金は下がり、わずかな預金は0金利・・・高齢者の暮らしを直撃しています。もちろん、賃上げが追い付かない世代にとっても大問題です。ますます少子化に拍車がかかるのでは？

2022.10.27 外れくじ



▲最高気温と最低気温の差が、このところ10度以上の日が続きます。体調維持に気を使います。路傍のヨウシュヤマゴボウの実が、すっかり色づきました。子どもの頃に画用紙に青い汁で絵を描いた人も少なくないでしょう。

11月6日の「ぎふ信長まつり」の騎馬武者行列に、木村拓哉と伊藤英明のお二人が参加するというところで、15,000人の定員に対して、96万6555人の応募があり、抽選結果が申込者に随時通知されました。申し込んだ我が家にも通知が届きました。結果は、もちろん「落選」。まっ、良いかッ。

子どもの頃の騎馬武者行列が、米屋町筋を通ったことを記憶しています。岐阜公園まで練っていったのでしょね。また、金華橋通りを練っていったこともあります。その時は、車の行列で、何の趣向もなかった記憶もあります。祭りにも変遷がありますが、とりわけ産業祭の目的であれば、伝統よりも、時代感覚が問われるよようです。

祭り当日は、安全に、好天のもとに開催されると良いですね。

2022.10.31 ハロウィン



ハロウィンは、11月1日にキリスト教の祝日「諸聖人の日」(All Hallo)の前夜祭。秋の収穫をお祝いし、先祖の霊をお迎えするとともに悪霊を追い払うお祭りです。今では、宗教行事としてハロウィンを行うことはなく、19世紀の後半にアメリカで子どもでも楽しめるイベントになったそうです。

それにしても、いつからこんなに、我が国に根付いたのでしょう。お菓子の販売促進など商魂たくましい商売人の側面と、イベントを楽しみたい人々の側面がピッタリ一致して盛り上がっているようです。

子どもの頃、馴染みのなかったハロウィンは、クリスマス同様、今ではすっかり市民権を得ました。かたや、子どもの頃見たアニメ(バックスバニーだったと思う)に登場し、違和感を感じた行事のイースターは余り普及していません。10ほど前から、春の時期に商品展開や一部にイベントの開催が見られますが、宗教的色彩が強いせいか、定着していません。が、やがては町中にイースター・エッグやイースター・バニーがゴロゴロみられる日が来る気がしませんか。

ハロウィンには渋谷で毎年のように、狂騒が繰り返されています。10月29日には韓国で、路地の混雑で154人が亡くなる大事故が起きました。

祭りの味わい方を、改めて考えるいい機会かもしれませんね。ちなみに、11月の信長まつりの安全体制確保が、今や全国から注目の的ですよ。

【写真】百均でもさまざまなグッズが販売されていました。ゼンマイ仕掛けのかぼちゃをくりぬいた「ジャック・オー・ランタン」は魔除け、「Trick or treat. (お菓子をくれないと悪戯するよ)」と唱え、魔女やお化けに仮装した子供たちは、お菓子をねだって各家を回る。

2022.11.5 天下富舞



▲富有柿発祥の地の本巢市の個人の店で、知人に毎年贈る柿を買い求める。

初競りで過去最高額となる2個100万円で落札されたブランド柿「天下富舞（てんかふぶ）」。糖度20度以上の強い甘みが特徴で、8年前から本巢市を中心に生産されています。一生、口に入らないと思っていたら、何と近くのスーパーで1個598円で売っていました。傷物のようなのですが、話の種にと買い求めました。確かに甘く、ブラジルで食べた柿もトロピカルでしたが、ちょっと別物のフルーツの感覚です。

翌日、本巢市に出かけました。「富有柿の里」は、朝から混雑していました。大量に柿を仕入れる人の姿も。ここ数年は不作だったようですが、今年は豊作とか。特産品は地域活性化に欠かせません。

「天下布武」と言えば、明日はいよいよキムタクが登場する信長まつり。秋晴れの日、かなりの人出が予想されます。

2022.11.6 現代の信長



晴天の下、ぎふ信長まつりが中心市街地で繰り広げられました。開催前から全国から注目を浴びたのは、ひとえにキムタクが信長にふんした騎馬武者行列が行われるおかげ。彼の存在感は、並大抵ではなく、報道の数もすさまじかったです。当日のNHKの全国ニュースにも取り上げられると、翌日のテレビは、朝から晩まで、信長まつり一色。おむつを着用してきた女性、宮崎から来たけれどまったく見えなかった当選者、安全確保のため急きょ解放された西側歩道に対する予約席からの怒声等々も報じられていましたが、おおむね、安全管理に対する評価や緊急的な措置に対して、高評価だったようです。

ノーギャラ参加の木村拓哉さんに、感謝。そして橋渡しをしていただいた伊藤英明さん。郷里への思い、本当にありがとうございます。家臣役の彼も、決して引けを取らぬ凛々しい姿でした。(ちなみに来年は、綾瀬はるかさんの濃姫が見たい。)

※主催者発表の当日集客数は46万人とされているのはともかくとして、岐阜市の人出の多さからすると、長良川花火大会、そしてぎふ中部未来博のメインイベントとして開催された富田勲とスティービー・ワンダー共演の長良河畔でのコンサート「サウンドクラウド・イン・長良川」が飛びぬけていますね。また、報道陣が岐阜市に集結した例としては、金公園で開かれた高橋尚子さんのシドニーオリンピック金メダルの祝賀会では、報道陣の取材専用の架台が設営され、熱気を帯びました。



▲花火大会の日のような人混みの岐阜駅前(10時18分)。所用で忠節橋通りを行き来しましたが、車の流れは順調でした(騎馬武者行列は外れたのでさっさと帰宅しました)。

2022.11.11 重陽



▲地域の文化祭会場でのライブ中継を観覧する皆さん(13時51分)

「陽が重なる」と書き、「ちょうよう」。中国では奇数は、縁起がよいとされ、最も大きな陽数「9」が重なる9月9日を「重陽の節句」とし、無病息災や子孫繁栄を願ったそうです。旧暦の9月9日は、現在の10月中旬ごろで、菊が咲き始める頃で、この日は菊の花を觀賞したり、菊酒を飲んだとか。最近では温暖化のせい、11月にかけて、菊の花が迎えます。ならば、11月11日を菊の節句にしてもおかしくないかも。岐阜公園では、小規模ながらも菊人形が展示されています。岩野田北公民館では、6日に開催された文化祭に合わせて、菊の大輪が公民館にお目見えしました(トップ写真)。地域の皆さんが手塩にかけた一鉢一鉢には、育て上げた苦労がしのべられます。ハロウィンなどのイベントだけでなく、伝統行事を見直しても良いのでは。菊の花を杯に浮かべてみようかしらん。



▲岐阜公園にお目見えした菊人形。右端の銅像は板垣退助受難の地の像。



▲信長居館跡の発掘調査現場に通じる門には、槍を持った門番が。



▲発掘調査が進められている信長居館跡。

2022.11.17 仙人

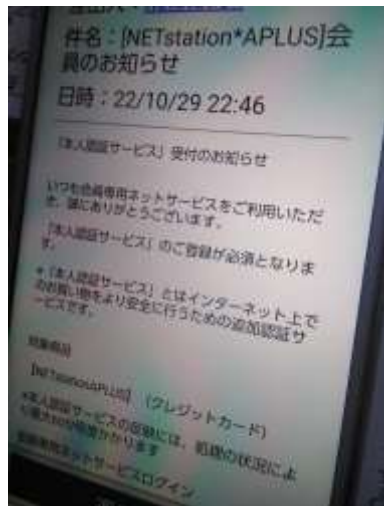


夏に白い花を蔓いっぱい咲かせていたセンニンソウが実を付けていました。名の由来の白髭のような種はすでに舞い散ってしまったようで、風車のような姿が残っています。花言葉は、「安全」「あふれるばかりの善意」。

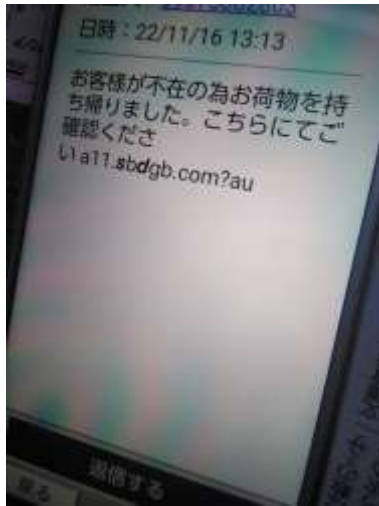
さて、浮世はそうはいかないようで、現代社会に欠かせなくなったスマホには、フィッシングをはじめ不審なメールが、手をかえ品をかえ届きます。国税庁を名乗るメールまで届きました。迷惑メールをブロックする機能を強化しても、効果はありません。

いつの世も情報化社会が進展し、重宝がられる一方で、情報格差がついて回ります。

仙人のように暮らす…高齢化が進む中、社会的孤立に陥らない桃源郷ってあるのでしょうか？



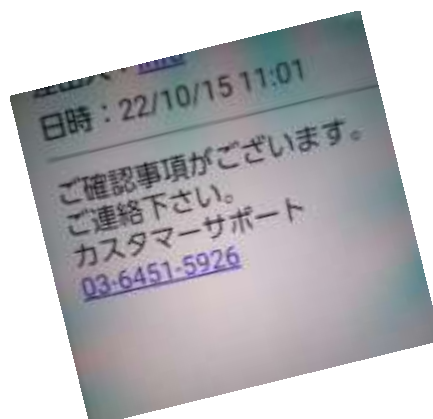
▲現存する会社に名を借りたフィッシングらしきメール



▲多く見られる有名な?メール



▲なんで国税庁なんだ



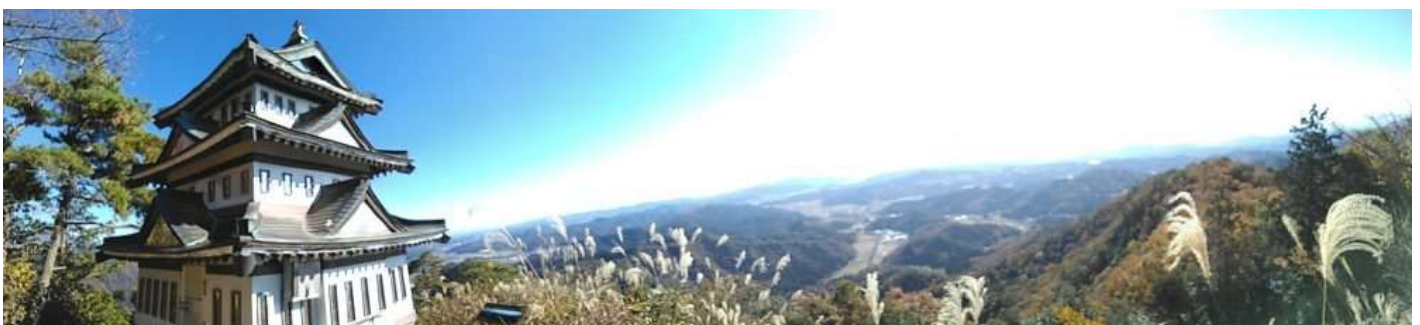
▲手を変え品変えメール変え

2022.11.18 大桑城跡



車で約 15 分、山県市の古城山に向かいました。山頂一帯にある大桑城跡を目指して初挑戦。1 時間余りの健脚コースはあきらめ、峠の登山口まで林道を車で行けるはじかみコースにします。所々狭いものの、数分で登山口駐車場に到着。そこから目指す山頂まで約 20 分。いのししはもとよりですが、熊、蜂、マムシにご注意とか。幸い出くわすことはありませんでしたが、大物のシマヘビが、木漏れ日を浴び、身体を温めていました(まだ、冬眠してないのだ)。手摺代わりのロープが設置されているお陰で、無事登れました。結構きつい。山頂のミニミニの模擬城からの眺めが疲れを癒してくれました。帰りの林道で、車の前方を黒っぽい大きめの動物が駆けて行きました。最初は野犬かと思いましたが、ニホンカモシカですね。栗野台団地から 15 分ほどの山で、何と人生初の遭遇を果たしました。

※大桑城 室町時代初期、美濃、尾張、伊勢の 3 国の守護を、戦国時代にかけては美濃国守護を務めた土岐氏が戦国時代に拠点としたのが、山県市の大桑地区。天文 4 (1535) 年、長良川の大洪水により、守護所をそれまでの枝広(岐阜市長良)からこの地に移し、標高 407.5m の頂上に大桑城を築き、土岐氏の拠点として栄えたと言います。天文 12 (1543) 年、勢力を増していた斎藤道三との間に戦が起こり、大桑城は落城、城主であった土岐頼芸は、天文 19 (1550) 年頃に道三によって国外に追放されました。



▲南方面には道三の居城であった金華山・岐阜城が見えます(トップ写真参照)。



▲山頂周辺では、発掘調査が行われていました。
▶頂上付近に咲いていたツツジの返り花。左上にはススキの穂が見えます。



2022.11.19 晩秋の路傍



夏に草刈された路傍に、背の低い草が花を付けています。ニシキソウもその一つ。赤い茎と緑の葉に由来する二色草。最近では、コニシキソウなどの帰化種に押されて減っているそうです。すぐ近くに咲いていたのはスマレ。このところの小春日和に誘われた返り花。タンポポは、綿帽子を付けています。他にも背の低い植物が何種類も。駆け足で近づく冬の気配を感じて、路傍の世界では花や種を大急ぎで付けています。



▲ニシキソウが地を這うようにして花と実を付けています。



▲ノジスミレでしょうか。返り咲いています。種は閉鎖花の？



▲風を待つセイヨウタンポポの種。

2022.11.20 多肉植物の日



今日は多肉植物の日。前にも紹介しましたが、お隣の瑞穂市に本社を置く岐孝園が制定し、日本記念日協会が認定しました。この頃に霜が降り始め、多肉植物も赤く染まり始めることからこの日になったそうです。

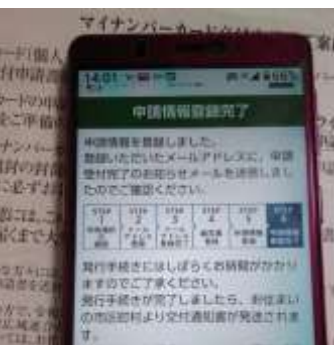
昔は、多肉植物と言えば、医者いらず(アロエ)ぐらいしか馴染みがなかったのですが、NHKの「趣味の園芸」にも度々登場するほどの人気です。いろんな種類が、市内のホームセンターでも見られるようになりました。

私が多肉植物に興味を持ったのは、中学生のころ。園芸店でも見かけることは少なく、通販で何十種かのセット売りを小遣いでも買える程度の値段で購入しました。しかし、当時の業者の質も悪く、屈指の生産量を誇っていた愛知県から取り寄せましたが、カイガラムシが沢山ついているなど、今では考えられないかわいそうな品でした。また、当時は珍しかった栽培用土として取り寄せた軽石は、実人が抜いてない、大きさもバラツキのある、ただ掘って袋詰めしただけの質の悪いものでした。今では考えられませんね。

多くの種類があり、それぞれの姿形に似合った名前が付けられている多肉植物。人気が出るのもうなづけます。今後、どのように人々の暮らしを彩っていくのか楽しみですね。

◀一株だけ買い求めた「十二の巻き」。あれから数十年の時を経て、こんなに増えました。落ち葉が舞う季節、まもなく部屋の中で冬越しです。

2022.11.26 マイナンバー



▲▲受付から発送完了まで3日ほど。幸い不備はなかったようで、自治体からの案内を待つだけ。

マイナンバーカードの申請をしました。郵送でも可能ですが、スマホでの手続きを見ると、簡単そうなので試してみました。自撮りする顔写真の撮影には、かなりの時間がかかりました。私の顔をじっくりと見るのは久しぶりで、こんな顔だったのかなあ、と納得がいかず、数時間を要しました。

申請案内のダイレクトメールが届いたのは、9月に入ってから。そもそも案内が各戸に来なかったのが不思議(ようやく国も自治体も本気になったみたい。来年度の地方交付税を算定する際に、自治体ごとのカードの交付率を反映する方針が示されるなど、自治体も取り組まざるを得ない?)。月末までに申請すれば、2万円分のポイントが付与されるということで、そろそろやろうかと…。でも同居者は、情報が漏れるのが怖い、と乗り気でなかったのと、手続きに腰を上げるのが面倒なので、放置していました。と、9月20日、突如、ポイント付与の受けられる申請期限を12月末日までに延長するとの発表。さらに、河野太郎デジタル大臣は10月13日の記者会見で、健康保険証を令和6年度秋をめぐりにマイナンバーカードと一体化した「マイナ保険証」に切り替える方針を示したことで、いよいよ申請のタイミングかと、今月に入って申請に至った次第。

それにしても、高齢者世帯が申請するには、ハードルが高すぎ。郵送用には写真を撮影しに行かなくてはならない。市役所まで出かければ、無料で撮影してくれて、手続きはサポートもしてくれそうだから、待ち時間のことを考えなければおすすめかも(スマホでの申請は、交付時に受け取りに行く必要があるけれど、窓口での申請は郵送してくれる)。ちなみに、12月8日に、岩野田公民館で出張受付が予定されていますよ。とは言え、最終的に、高齢者対象の紙ベースの保険証を全廃する何てできるのかしらん。

総背番号制だとか、個人情報流出とか、話が持ち上がってから終始、メディアは危険性の指摘に終始してきた感は否めないけれど、国民が公平なサービスを受けることができ、納税などの義務を公平に果たすための有効・安全な施策としてほしいもの。

2022.11.29 飛驒牛



◀6月に飛驒牛の品質改良の取り組みなどの講演を聴きました。

今日11月29日は、語呂合わせで「いい肉の日」。宮崎県の「より良き宮崎牛づくり対策協議会」が制定しました。10月に、5年に1度の全国和牛能力共進会が鹿児島で開催され、飛驒牛も上位入賞を果たしました。

6月24日、飛驒牛の品質向上の取り組みなどをテーマにした講演会を聴講しました。「飼育数に勝る宮崎県などの県に劣らない牛を育てるためには、科学的な分析による品種改良がカギを握る」と、共進会に向けての意気込みを語られたことが印象に残っています。この大会で日本一に輝いたことのある飛驒牛、今後が期待されます。あわせて、世界に誇る和牛を発信し続けるためにも、各県が切磋琢磨する意義は高まっているように思われます。

これ以降の日記は、現在編集中です